

●竹蛇籠視察団からお礼のメールが届く 岡山県の旭川流域ネットワーク事務局の竹原和夫さんから雨の中で熱心な説明を有り難うございましたとメールを頂きました。

百間川の環境排水路浄化水路の付け替えに伴って出来上がった川の斜面の対策として竹蛇籠の設置で、優しい川への取組として考えておられるようです。9月初旬には旭川の中州にある真竹を切り出して蛇籠の試作を予定され、これをもとに地域市民の方々と川への対応を進めるとされています。私たち里山の会が一昨年取り組んだ竹蛇籠の設置を遠く岡山県から見学に来ていただき、私たちが苦勞して作り上げた竹蛇籠が大きな反響を呼んでいるということに驚きます。

みんなが取り組んだ古来工法による取組みが紹介され普及して環境対策として役立ち始めました。非常に苦勞してきた成果が発揮されだしたことは嬉しいです。

●山城広域振興局農林課 薪割機の紹介 京田辺市経済環境課と京都府モデルフォーレストを紹介

24日に宇治の山城広域振興局を訪ねた際に農林商工部森づくり推進室という看板が目に入りました。目を引いたのは「森づくり」と言う文字でした。この春、里山農園のナラ枯れ木の伐採を実施。その枯れ木を玉切りにしたのですが、あまりにも大きく太く重くて持ち出しには手に負えなくて困っている、大量なので斧などの人力ではとても処分できないので「薪割機」の購入を検討するにあたって、機種や大きさ重量、取り扱い易いもの等、購入に必要な条件をクリアした製品について助言を求めるには良いところが見つかったと思い、扉をたたきました。直接の担当者ではなかったのですが、丁寧に要望事項を聞いていただきました。翌日多くのパンフを郵送くださいました。また京都府モデルフォーレストと京田辺市の農政課を紹介いただきました。かなり新しい知恵をたくさん教えていただきました。親切な対応に感謝いたします。

●夏原グラント助成金交付団体の活動交流会 場所・大津市民活動福祉センター 25日10時～

春3月に活動助成金が申請額の半分弱となって認めていただきました。その関係で交付団体の活動交流会が行われ、出席しました。17団体が自己紹介を兼ねて活動内容の発表が行われました。里山の会は、イノシシの侵入がはなはだしいことなどを加えて報告しました。他の皆さんも人集めに苦勞されていることが数多く発言されました。全体を通じた大きな課題であることが浮き彫りになっていました。終わり際に事務局から9月以後新年度の各種助成金制度の募集が集中するので、準備されることが必要だと連絡されました。

●第7回親子で遊ぼう学ぼう魚とり（最終回）26日 未明からの雨で増水 危険予想で 中止

今年の「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」の最終のイベントでした。未明に降った大雨によって木津川の水位が高くなっていました。そして東の山からくる青谷川の水が強烈的な泥水となって増水に拍車をかけていました。これでは、体重の軽い小学生は流される危険があると判断して、中止としました。夏休みの最後のイベントとして楽しみにされていた子どもたちには、まことに心の痛い決定となりました。準備を進めてきたものとしても大変残念でした。

●大聖牛設置場所確認作業 26日 13:00

竹門先生 福井 播川 稲垣淀川河川事務所課長 小林 山村 京大生 7名が参加。背丈よりも高く、ものすごく伸びている雑草を切り開く通路の開拓に精魂使い果たすことになりました。一昨年にはトラックが走れたところなど跡形もなく覆われて前に進むことがとても困難でした。ハンマモアを持ち込んで切り開くのですが、あまりにも密集して茂っているので、さすがハンマモアも刈り取ることができず何度もエンジンがストップします。加えてイネ科の植物の繁茂があって巨大で異常に大きくなっていて引き返すのも簡単にできない身動きが取れないこともたびたびでした。ところどころに洪水で流れ込んだ雑草や異物が大量に積み重なって、前進を阻みます。悪戦苦闘の400mの通路開通作業の1時間でした。やっとのことに設置予定地の砂洲に到着し、早速、竹門先生と協議し、大聖牛3基の設置位置を確定しました。大変ですが玉石や竹蛇籠や巨大な材木の運搬通路が確保できれば設置が可能と判断

しました。続いて案内呼びかけチラシの原案のチェックを行い完成原稿が出来上がりました。問題はこの取り組みの急所は 27 本の竹蛇籠の製作がやり切れるかどうかにかかっていることが分かりました。2 年前の 2 日間の蛇籠づくりでは、初日 100 人の人手が取り組んで完成したのは夕暮れ 15 時 30 分に 3 本やっと編みあがったのです。この経験から蛇籠を作り上げられるのだろうかという心配があります。22 日に里山の会が暑い中、心を決めて試作に取り組みましたが、とても完成はできませんでした。頭では理解していても長い竹を組み合わせる作業はかなり難しい作業なのです。とても一筋縄で作られるものではありません。竹蛇籠を作り上げるために 9 月 5 日を初日にして、「大聖牛設置に伴う竹蛇籠製作学習研究会」を 15 回計画しました。場所は玉水橋東詰め広場で午前 9 時から 11 時 30 分まで次の日程で開催します。手の空いた方は必ずお越しください。少なくとも最低 3 人が力を合わさないと編みあがりません。強力なご協力をお願いします。9 月 5・7・11・20・21・24・27・29 日を予定しています。講師は有田勉新理事にお願いしています。一人でも多くの皆さんのお手伝いをお願いします。大聖牛設置は 27 本の竹蛇籠を組み上げられるかが成否を決めます。まさに里山の会の底力が試されることになります。

●第 23 回通常総会第 2 回理事会の開催 31 日 これまでの理事会では主として事務局サイドからの報告を中心に議論を進めてきました。今回は事務局報告に加えて理事各位からも上半期にかかわっている部署の活動報告書の提出をお願いしております。理事各位も真剣に活動を振り返っていただき、課題の発見に取り組んでいただいています。この報告書は、会誌 43 号で完全掲載を予定しています。ご期待ください。

●会誌 43 号原稿募集中 仲間の広場や調査研究への投稿をお願いします。この二つのブロックでは低調が続いています。力を入れてご投稿をお願いします。締切日は 9 月 20 日となっています。

●第 21 回里山講演会 9 月 2 日(土)13 時開場 申込不要 先着 60 人

過日淀川本川ではイタセンパラの放流による稚魚の増加が新聞紙上ににぎわしています。世間の注目を集めています。これまで木津川での復活を重ねて要望を行って来ました。5 年前一斉に河川敷内の樹木の伐採が行われましたが、現在では元の木阿弥どころか地域によっては以前より一層密集して巨木に変身してしまっています。イタセンパラの生息池は日が射さないほど水面がおおわれ、池を見つけ出すのも難しい状況に代わっています。こうした環境変化を放置することなく復活を目指したいものです。今後の方針を伺いたいと思っています。川の問題に引き続き山の課題について、里山活動に期待するものとしてお話をいただき、里山の会の意活動の意義や新しい奥的模索における示唆を学びあいたいと思っています。皆さん文化の先駆け 2 日は共に学びあいましょう ぜひお越しください。

1：イタセンパラのこれから 淀川河川事務所副所長 白波瀬 卓也

2：里山活動に期待するもの 琵琶湖成蹊スポーツ大学教授 西野麻知子

●生物多様性国家戦略における京都府戦略について検討会が開かれる

自然環境保全京都府ネットワーク主催の 2 回目

●外来植物の学習会 9 月 9 日 (土) 13 時分 丹後市峰山町 社会福祉センター

講演光田重幸先生が外来生物の影響について講演されます。ヒアリなど殺傷能力を持つ生物が発見され、大きな話題にされています。外来生物の出現はどのような影響を生物界に与えているのでしょうか。学ぶいいチャンスと思います。会場は丹後ですが、道路状況も改善されました。出かけてください。

●9 月以後の取り組みについて

講演会 2 日(土)13:00 中央公民館竹蛇籠づくり 5 日 (火) 9:00 玉水橋東詰め広場京都府西部た多様性戦略検討会 5 日 14:00 京都府庁木津川希少植物維持管理業務申請期限 11 日(月)

バッタのオリンピック 23 日 10:00 水主の浜